

特別プログラム 褥瘡と栄養

【コーディネーター】菅原 啓、大浦武彦

【主 旨】

褥瘡の予防・治療にあたり栄養の重要性が言われだしてから久しい。事実、栄養が悪いと褥瘡の治癒は遷延するし再発もしやすいが、そのエビデンスを証明するのはなかなか難しいようです。

2002年に「褥瘡対策未実施減算」の指針が出されてから、各病院・施設内に褥瘡対策委員会・チームが作られ、その中に栄養士も加わり活発に活動されたのではないかと思います。

また昨年10月に介護保険療養病床における栄養ケアマネジメントの導入により栄養士の業務が、通常日常業務の他に患者さま個人の栄養アセスメントの施行、ケアプランの作成・実施・確認作業への協業作業が加わってきております。

このように栄養評価・管理が重要視されるようになってきていますが、一人の患者に対し褥瘡対策委員会とNSTが同時に関与する場面もあるうかと思われます。その際の、

両方のチームの協力に対する工夫

栄養と褥瘡の関連究明の為の研究手法

栄養と褥瘡の関連

などについて検討したいと考えております。

なお昨年の特別プログラムの終了後のアンケートで「もっと具体的なお話を聞きたい」という希望がありましたので、今回、第一部として各病院・施設で経験された興味ある症例、治療難渋症例などを持ち寄っていただき皆様と会場で意見を交換したいと思っています。

【プログラム 9月7日(木)・13:15～15:45】

第 部

13:15～13:55 基調講演「褥瘡と栄養」

大浦武彦（日本褥瘡学会 前理事長）

13:55～15:15 現場からの報告

原麻由美（橋本病院 副看護部長）

角橋 康（鹿島病院 薬剤師）

天春絵美（三条東病院 看護師）

高橋詩歩子（定山溪病院 管理栄養士）

シンポジウム

〔シンポジスト〕上記報告者4名

〔司会〕菅原 啓（定山溪病院 副院長） 大浦武彦

第 部

15:15～15:45 症例供覧

〔司会〕菅原 啓、大浦武彦

* 症例をお持ちの方は、簡単な病歴・処置内容・経時的变化がわかる写真を菅原(sugawara@kejinkai.or.jp)まで送っていただければ、そのまま発表へつなげたいと思います。ソフトはPower Pointで。